

# 26PA-pm107

コンタクトレンズの適正使用に関する調査

小森 由美子<sup>1</sup>, 櫻井 梨絵<sup>1</sup>, 鎌倉 里恵<sup>1</sup>, 多湖 美登里<sup>1</sup>, 石川 泰成<sup>2</sup>, 打矢 恵一<sup>1</sup>,  
○二改 俊章<sup>1</sup> (<sup>1</sup>名城大薬, <sup>2</sup>健康第一調剤薬局)

【目的】 近年、短期間交換型のコンタクトレンズ (以下 CL) 使用による眼障害がしばしば報告されていることから、CL の適正使用を推進することを目的に、使用状況について調査を行った。

【方法】 19~60 歳代の CL 使用者 164 名を対象とし、使用方法および取扱いの知識についてのアンケート調査を実施した。また使用中の CL (13 検体)、ケース (40 検体)、洗浄・保存液 (40 検体) の汚染状況について培養検査を実施した。

【結果】 アンケート回答者のうちソフト CL 使用者が 77 % を占め、その中でも使用比率が最も高く、眼障害報告数も多い 2 週間および 1 か月交換型の CL 使用者 107 名についてさらに検討を行った。CL の適切な装用期間、装用時間、手洗い、こすり洗い方法について正しい知識を持っている人の比率はそれぞれ 74%、93%、98%、28% であったが、それを適切に実施している人は 56 %、57%、43%、10% で、知識との乖離がみられた。一方、消毒時間やケース交換頻度は、知識と実施状況に大きな差はなく、適切に実施している人が多かった。

検体提供された CL、ケース、洗浄・保存液の培養検査で、何らかの微生物が検出されたのはそれぞれ 62、53%、65% で、グラム陽性球菌とグラム陽性芽胞形成菌が多く検出された。また適切な使用方法の順守率が低いほど検出菌数も多く、洗浄・保存液は MPS よりも漬け置きタイプの汚染度が高い傾向が見られた。

【考察】 CL の適正使用には正しい知識と実践の両方が伴わなければならないが、正しい知識があるにも関わらず、ケアを適切に行っていないケースもあったため、今後知識の普及とともに、いかにして実践を促すかという方策を考えていく必要がある。